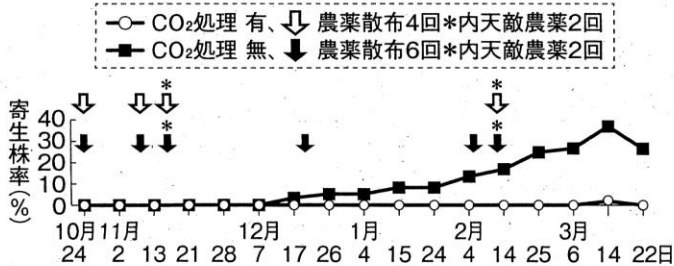




ハダニ類に対する防除効果(2018年10月~19年3月)



イチゴ「ゆめのか」

高濃度CO₂処理でハダニ類の発生抑制

県のイチゴ主要品種である「ゆめのか」は、茎葉が繁茂しやすい品種です。そのため、ハダニ類を本圃(ほんぼ)で防除する際に薬液が葉裏に掛かりに

酸化炭素(CO₂)処理し、定植後の防除はミツバチと天敵に影響の少ない薬剤および天敵剤を用いるハダニ類に対する総合的病害虫・雑草管理(IPM)体系の開発に取り組みました。

高濃度CO₂処理とは、濃度60%程度(大気中の約1500倍)のCO₂(農業登録されているもの)で、イチゴ苗を24時間(温度25~30度)くん蒸してハダニ類を防除する技術です。卵を含む各発育ステージのハダニ類に効果があります(殺卵には25度以上必須)。

試験の結果、本圃の防除に定植前の高濃度CO₂処理を組み合せることにより、ハダニ類の発生を長期間抑制し、慣行防除より防除回数が低減できました(図)。

なお、「ゆめのか」では、高濃度CO₂処理を行った苗に、下葉が褐変する症状が生じます。収穫開始時期、収穫量に差はありません。

発生を抑えるには、苗による本圃への持ち込みを防ぐことが重要です。

そこで定植前の苗を高濃度CO₂処理し、病害虫研究室室長 難波信行

(長崎県農林技術開発センタ)